

宮津与謝消防組合監査公表第12号

地方自治法（昭和22年法律第67号）第199条第4項の規定による定期監査を実施したので、同条第9項の規定により、その結果を公表します。

令和元年8月30日

宮津与謝消防組合

監査委員 稲岡修

監査委員 宮崎有平

## 令和元年度定期監査結果報告書

### 1 監査の種類

定期監査

### 2 監査の実施日

令和元年7月23日

### 3 監査の方法等

平成31年4月1日から令和元年6月30日までの業務の執行概況について説明を求めたほか、予算の執行、契約事務並びに財産管理について、契約書、財産調書、車両台帳等関係書類の提出を求め、書面による審査及び現地調査を行うとともに、必要に応じて関係職員から説明を聴取するなどの方法により行った。

### 4 監査における重点事項

- (1) 予算の執行は適正に行われているか。
- (2) 契約事務は適正に行われているか。
- (3) 財産管理は適正に行われているか。

### 5 監査の結果

予算の執行等については、例月出納検査における調書、資料等も参考にして監査を実施した。

予算の執行等は、地方自治法、財務規則等の関係法令に準拠し、適正に行われていると認められた。

契約事務については、令和元年度第1四半期に執行された契約13件・請書2件を対象に監査を実施した。

契約の起案書、予定価格調書及び契約書等の契約関係書類については、法律、規則に則して作成されており、適正に執行されていることを認めた。また、物品の納品に係る検収等においても受注者側の立会いのもと、確実に行えていることを確認した。

契約事務の執行に当たっては、引き続き事業の目的、意義のもと、経済性のもとより、公正性、透明性及び競争性の確保に努められたい。

財産管理については、本署、各分署における施設及び車両等の備品の財産について、台帳の整備や使用状況等、管理・運用状況を監査した。

施設整備については、化学消防ポンプ自動車の代替車両として本署で運用していた水槽付消防ポンプ自動車から災害対応特殊化学消防ポンプ自動車（I型）へ更新が完了し、ボタン操作だけで泡消火薬剤と水が混合されるため、油火災に対して迅速に初期消火を行うことができるほか、圧縮空気泡消火装置（CAFS）によって3種類の放水が可能となり、災害の状況に応じた機能を選択することができる。また、1,500リットルの水槽を搭載していることから、タンク車としても運用でき、水利条件の悪い災害現場でも効率的な消火活動が可能となることは、消防力の充実強化につながるものであり、今後においても更なる充実を期待するものである。

宮津与謝消防組合管内における令和元年上半期（1月1日～6月30日）の火災、救急、救助及びその他出場の発生件数は1,247件で、前年同期と比較して30件増加している。

内訳として、火災16件（前年度比3件増）、救急1,112件（前年度比52件増）及び救助7件（前年度比3件増）については、増加傾向となっている。また、その他出場112件（前年度比28件減）については、減少傾向で推移している。

ドクターヘリの要請件数37件（前年度比21件減）については、前年度より減少となっているが、昨今の救急要請形態が複雑・多様化しており、ドクターヘリの運用によって、へき地における救急医療体制が強化されていることは非常に喜ばしく、今後においても救命率の向上及び後遺症の軽減が図られることを期待するものである。

近年、気象の激化等によって全国各地で風水害が多発しており、平成30年度は平成30年7月豪雨のほか、大型台風が相次いで日本列島に上陸し、交通や電気などのインフラに深刻なダメージを与え、各地に甚大な被害をもたらした。

また、大阪府北部地震など地震も頻発しており、北海道胆振東部地震では前日の台風による豪雨も影響し、大規模な土砂災害が発生するなど、これまでにない複合的な要因によって被害が拡大した。南海トラフ地震等の巨大地震の発生も懸念されており、このような災害がひとたび発生すれば多くの人命と財産が失われ、国家的な危機に陥るといっても過言ではない。

今年度に入ってから、5月8日に滋賀県大津市の県道交差点で、右折しようとした乗用車と対向車線を直進してきた軽乗用車の接触事故により、軽乗用車が保育園児の列に突っ込み、園児など16名の死傷者が発生した交通事故や、7月18日には京都市伏見区のアニメーション制作会社に男が侵入し、ガソリンをまいて火をつけた疑いにより、建物が全焼して69名が死傷するなど、自然災害や社会的影響が大きい交通事故、大規模火災が後を絶たず安心・安全を守る最前線で活動する消防に寄せられる期待は、ますます大きなものとなっている。

当消防組合管内では、人口減少や高齢化が一段と進み、過疎化に歯止めがかからない状態が続いている。行政コストが増大する中、非常に厳しい構成市町の財政状況を勘案した上で、今年度は宮津分署の災害対応特殊消防ポンプ自動車（CD-I型）の購入を計画されており、円滑な事業の進捗を望むものである。

また、各消防車両や消防資機材等についても、第4次宮津与謝消防組合基本計画に基づき計画的な整備が進められるとともに、消防団や医療機関等の関係機関との連携強化を図るなど、消防業務の適切な運営に努められ住民の信頼に応えられるよう期待するものである。